
キミには内緒の恋。

那風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミには内緒の恋。

【Nコード】

N5311BA

【作者名】

那風

【あらすじ】

ある女の子が、ある男の子に恋をする話。

第1話 & g t ; & g t ; 意識と自覚。 (前書き)

☆注意

- ・ 本作品は作者の体験談をもとに執筆しております。
- ・ 登場人物に名前はありません。あらかじめご了承ください。
- ・ 本作品の著作権は作者にあります。
- ・ 作者以外の方による無断転載は禁止しております。もし行った場合、著作権法の違反となります。

第1話 & g t ; & g t ; 意識と自覚。

事の始まりは去年の10月。ちょうど修学旅行の時だった。目的地へ向かうバスの中でキミを見つけた。

かっこいいと思った。どうして今まで気づかなかったんだろう。今思えば一目惚れだった。寝てる態勢までもがかっこ良く見えた。でもそれは一瞬。

この時のキミは私にとって、だた気になるだけのありふれた存在。そのまま私は眠りについた。

10月下旬。いつの間にか目がキミを追っていた。意識はゼロ。あれ？って思った。何度も。でも気のせいだと思った。

はつきり分かったのは近所であったお祭り。

部活で仲良しの4人で行った時、やっぱり同じように4人ぐらいで来てたキミに会った。

ちようと持ってたカステラをみんなにあげつつキミにも。

ラストの1個を他の男子が食べたのに気づかなかった。

知らずに袋を差し出す。

「食べる？」

「ああ…」そう言って袋を軽く覗く。

「……いや、やっぱいいや」

「いいの？」

「うん。」

「そっか……」

短い会話。しばらくして別れた。

別れてからついでに食べてしまおうと袋に手を伸ばした。

……あれ？

何度探ってもカステラのかけらしか手に触れない。

中を覗く。

………かけらしが残ってないじゃん。

そういえばあげる前に他の男子が1つ食べてたな……

あれ、じゃあさっき断ったのは……？

それが本当の始まり。優しくて、大好きになった。

自覚してからは毎日が幸せだった。

一瞬目が合った時、少しでも話せたとき。

キミの笑顔を見てるだけで幸せになれた。

無表情だと思ってたけど実はけっこう笑ってた。

話す声は思ってたより低かった。

知らなかったことがたくさんあって、それを見つけるたびに嬉しくなった。

第1話 >; >; 意識と自覚。(後書き)

皆さんは今、恋をしていますか？
それはどんな恋ですか？

恋は、さまざまな感情を私たちにもたらします。
時としてそれは甘く、楽しく、幸せで、
時としてそれは辛く、苦しく、悲しいものです。

恋の仕方は人それぞれ。

これは私が体験した、ひとつの恋の仕方です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5311ba/>

キミには内緒の恋。

2012年1月14日18時48分発行